

生活設計と年金に関する世論調査（主な調査結果）

令和6年3月28日

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

「生活設計と年金に関する世論調査」の概要

調査目的	生活設計と年金に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする
調査対象	全国18歳以上の日本国籍を有する者5,000人（有効回収数：2,833人、有効回収率56.7%）
調査期間	令和5年11月2日から令和5年12月10日まで
調査方法	郵送法
調査項目	1 老後の生活設計について 2 公的年金制度への意識・ニーズについて 3 私的年金制度への意識・ニーズについて
主な類似調査実績	「老後の生活設計と公的年金に関する世論調査」（平成30年11月） 「公的年金制度に関する世論調査」（平成15年2月、平成10年3月、平成5年2月） （※）私的年金制度に関しては初めて世論調査が行われた。

（※）本資料は、令和6年3月 内閣府政府広報室「生活設計と年金に関する世論調査」の結果を基に厚生労働省年金局で作成。

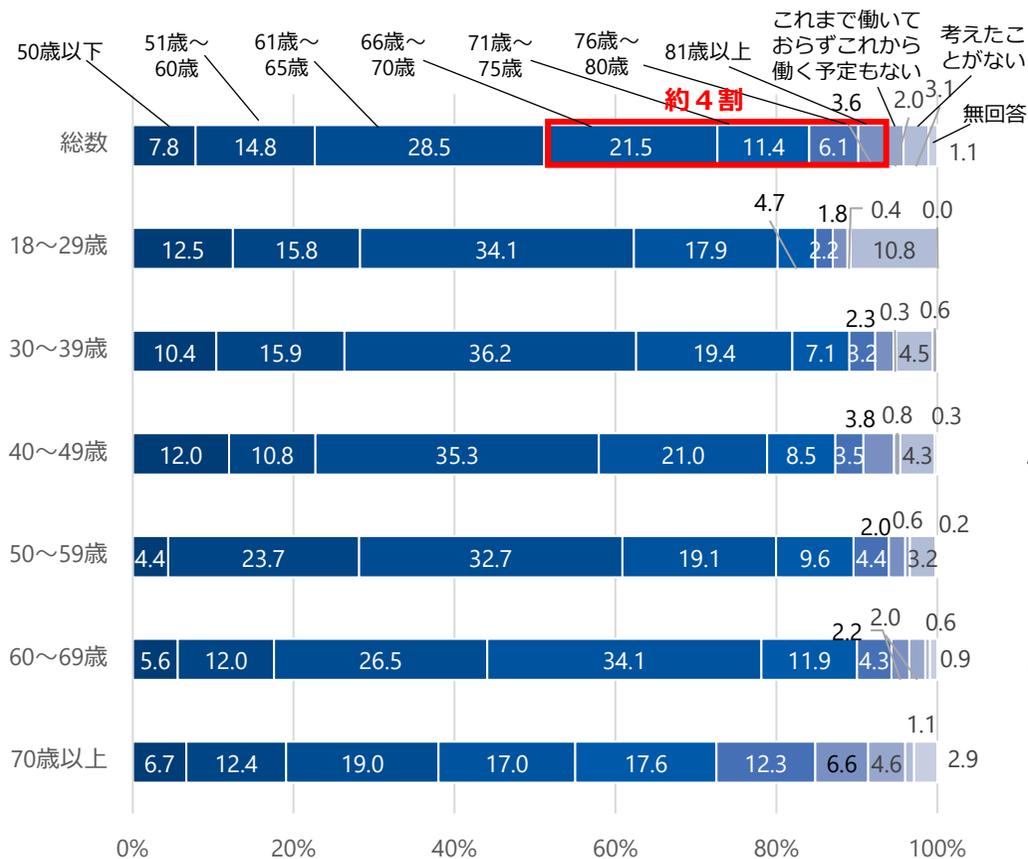
（※）平成30年11月調査までは調査員による個別面接聴取法で実施しているため、郵送法で実施した令和5年11月調査との単純比較は行わないこととされていることに留意が必要。

（※）図表の数値（%）は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、内訳の合計が100にならないこともある。 2

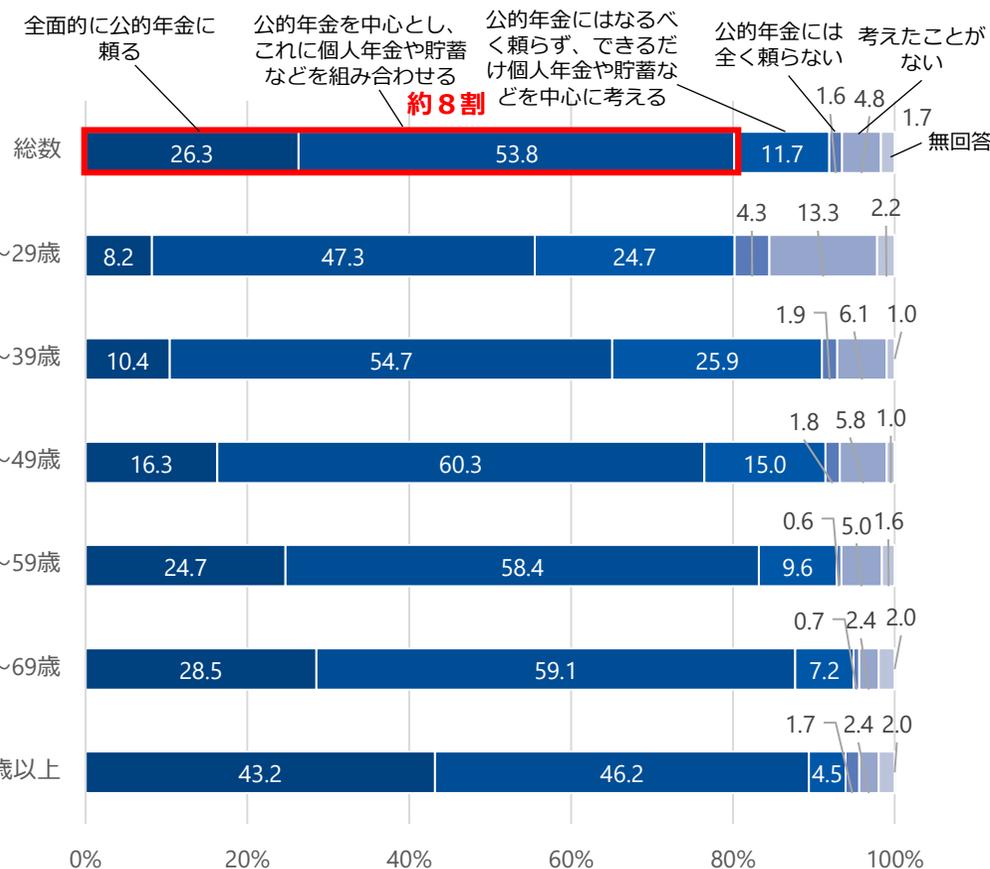
老後の生活設計について

- 「何歳まで仕事をしたいか、またはしたか」の問に対し、約4割の方が66歳以上と回答。
- 老後の生活設計の中での公的年金の位置づけは、26.3%の方が「全面的に公的年金に頼る」、53.8%の方が「公的年金を中心とし、これに個人年金や貯蓄などを組み合わせる」と回答した。
また、年齢層が高いほど「全面的に公的年金に頼る」の割合が高かった。

■ 何歳まで仕事をしたいか、またはしたか (問1)



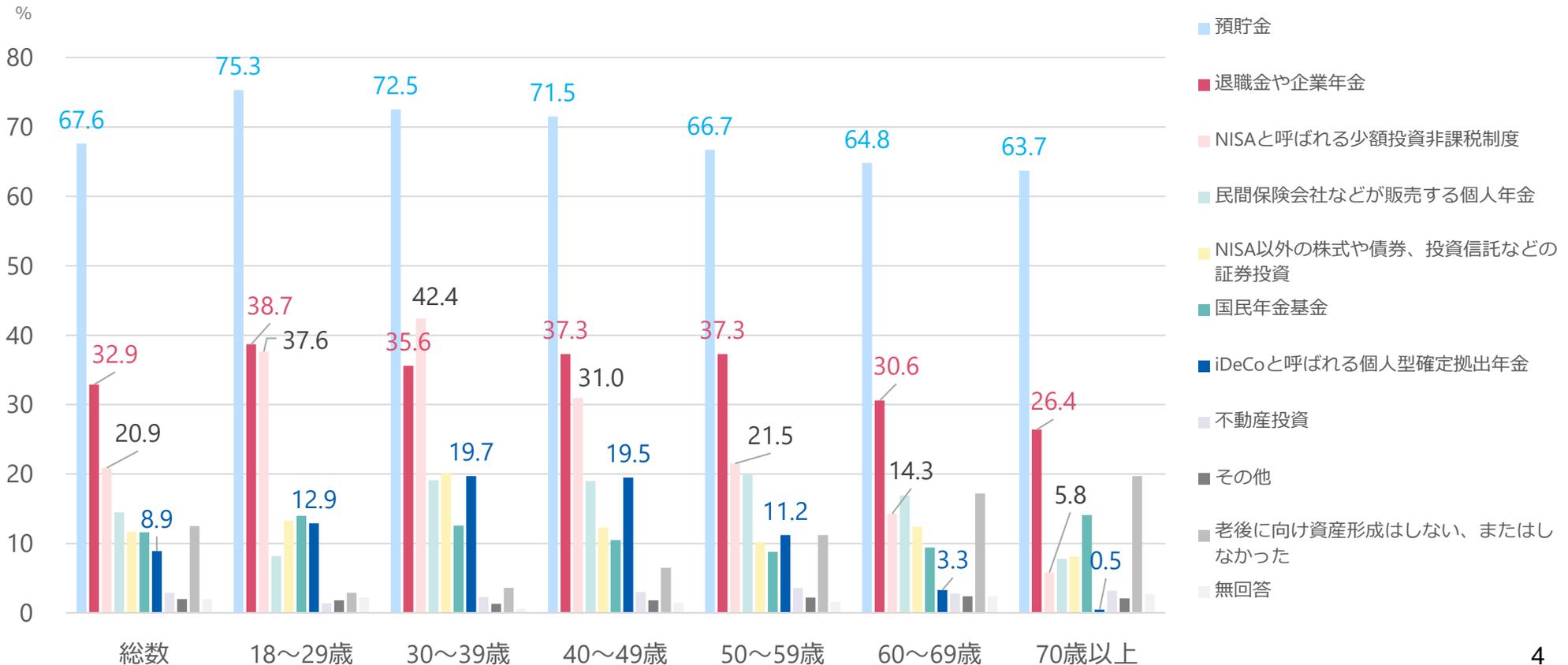
■ 老後の生活設計の中での公的年金の位置づけ (問4)



老後に向け準備したい、またはした公的年金以外の資産について

- 老後に向け準備したい、またはした公的年金以外の資産は、どの世代でも「預貯金」が6割を超え、「退職金や企業年金」について、おおむね3割程度という結果となった。
- 「NISAと呼ばれる少額投資非課税制度」や「iDeCoと呼ばれる個人型確定拠出年金」については、世代ごとにばらつきが見られるが、相対的に見て20代～40代では高い割合で回答があった。

■ 老後に向け準備したい、またはした公的年金以外の資産（問5） ※複数回答可

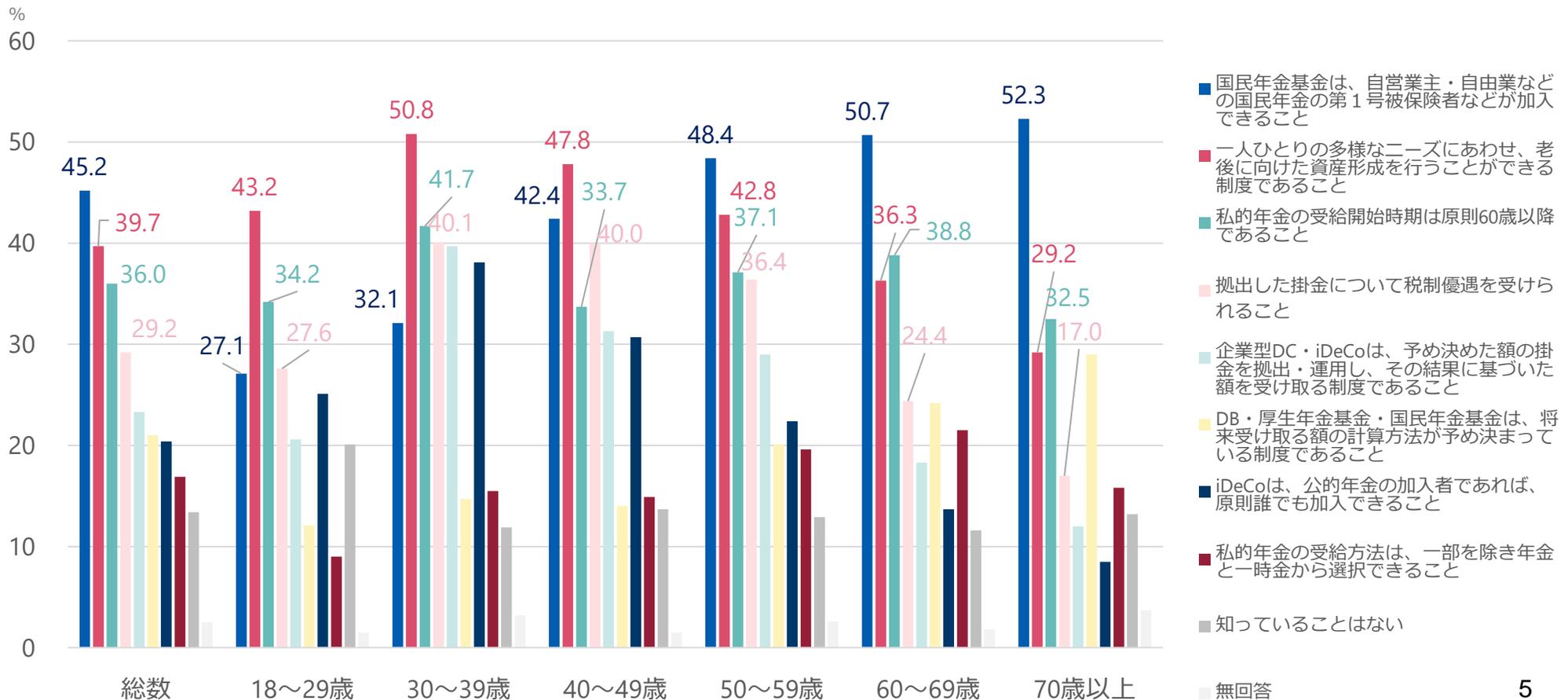


私的年金制度の仕組みや役割についての認識について

- 私的年金制度全体について、「一人ひとりの多様なニーズにあわせ、老後に向けた資産形成を行うことができる制度であること」については、全体でみても4割程度の認知がされており、特に20代～50代においては4割を超えている。
- 「拠出した掛金について税制優遇を受けられること」については全体で3割程度が認知しており、30代～40代では4割を超えている。

※私的年金制度について、いずれかの制度を認識していると回答した者のみが回答、複数回答可

■ 私的年金制度の仕組みや役割についての認識（問17）

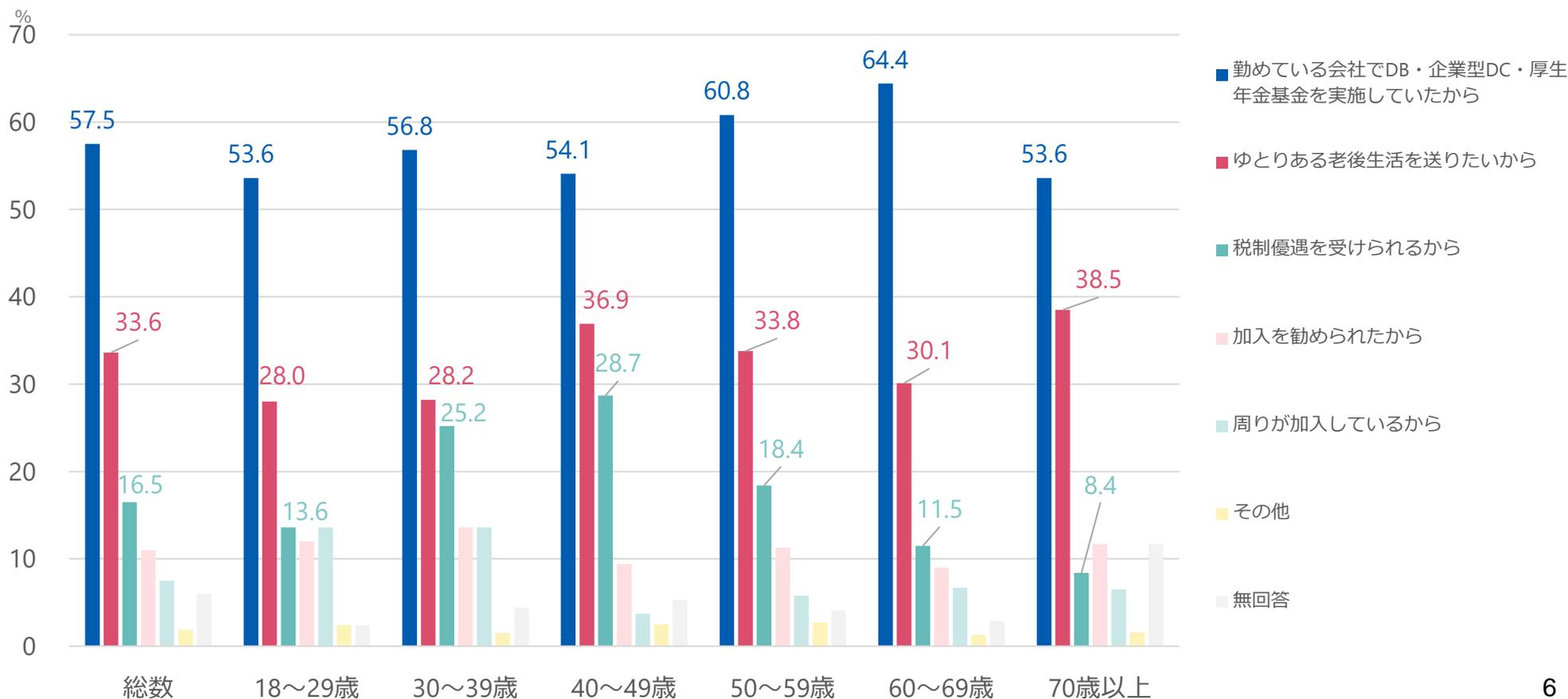


私的年金制度に加入している、またはしていた理由について

- どの世代においても、「勤めている会社でDB・企業型DC・厚生年金基金を実施していたから」「ゆとりある老後生活を送りたいから」が回答の上位を占めた。
- 「税制優遇を受けられるから」との回答には世代ごとにばらつきが見られるが、30代・40代では3割近くになっている。

■ 私的年金に加入している、またはしていた理由（問19）

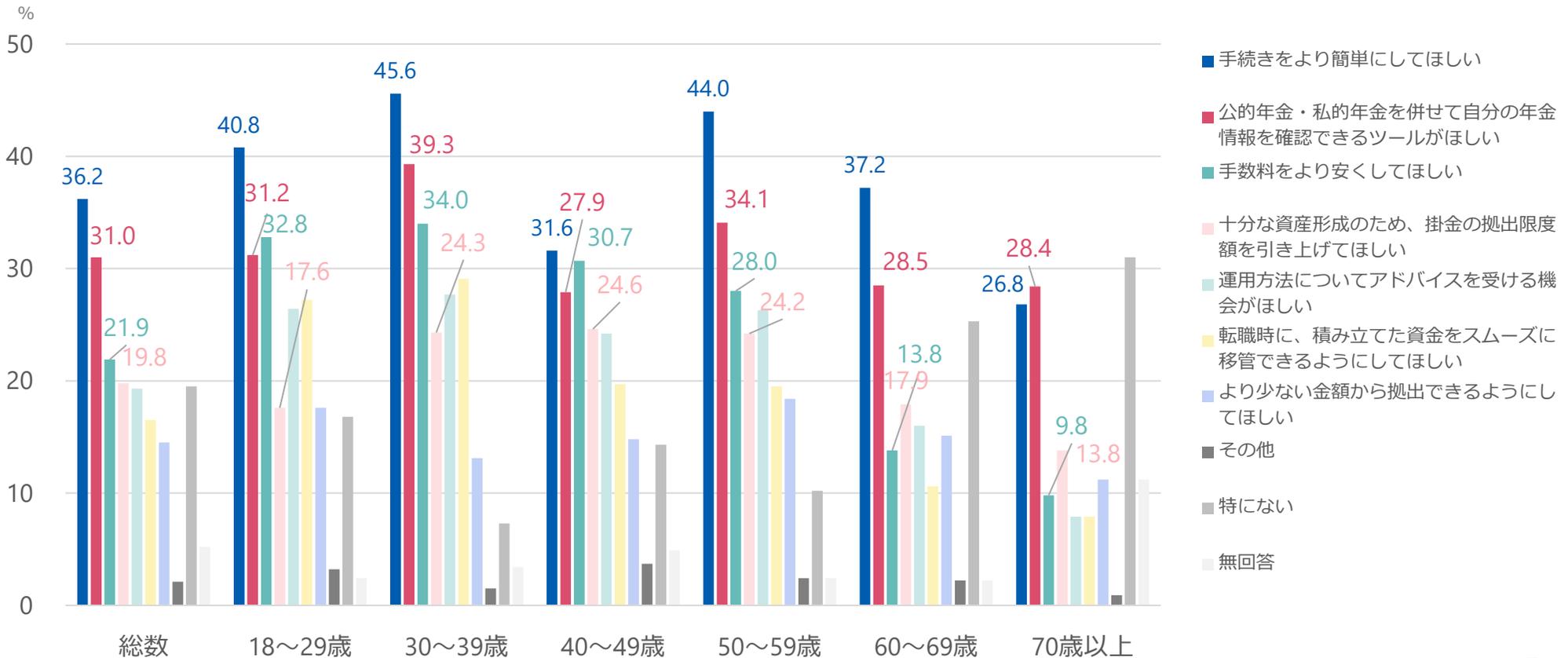
※私的年金制度のうちいずれかの制度に加入している、又はしていたと回答した者のみが回答、複数回答可



私的年金で改善を希望する点について

- 幅広い年代で、手続きの簡素化についてのニーズが高く、また「公的年金・私的年金を併せて自分の年金情報を確認できるツール」を求め方がどの世代においても約3割程度みられた。
- 「手数料を安くしてほしい」と回答したのは特に20代~40代が多く、「掛金の拠出限度額を引き上げてほしい」と回答したのは30代~50代が多かった。

■ 私的年金で改善を希望する点（問20） ※私的年金制度のうちいずれかの制度に加入している、又はしていたと回答した者のみが回答、複数回答可

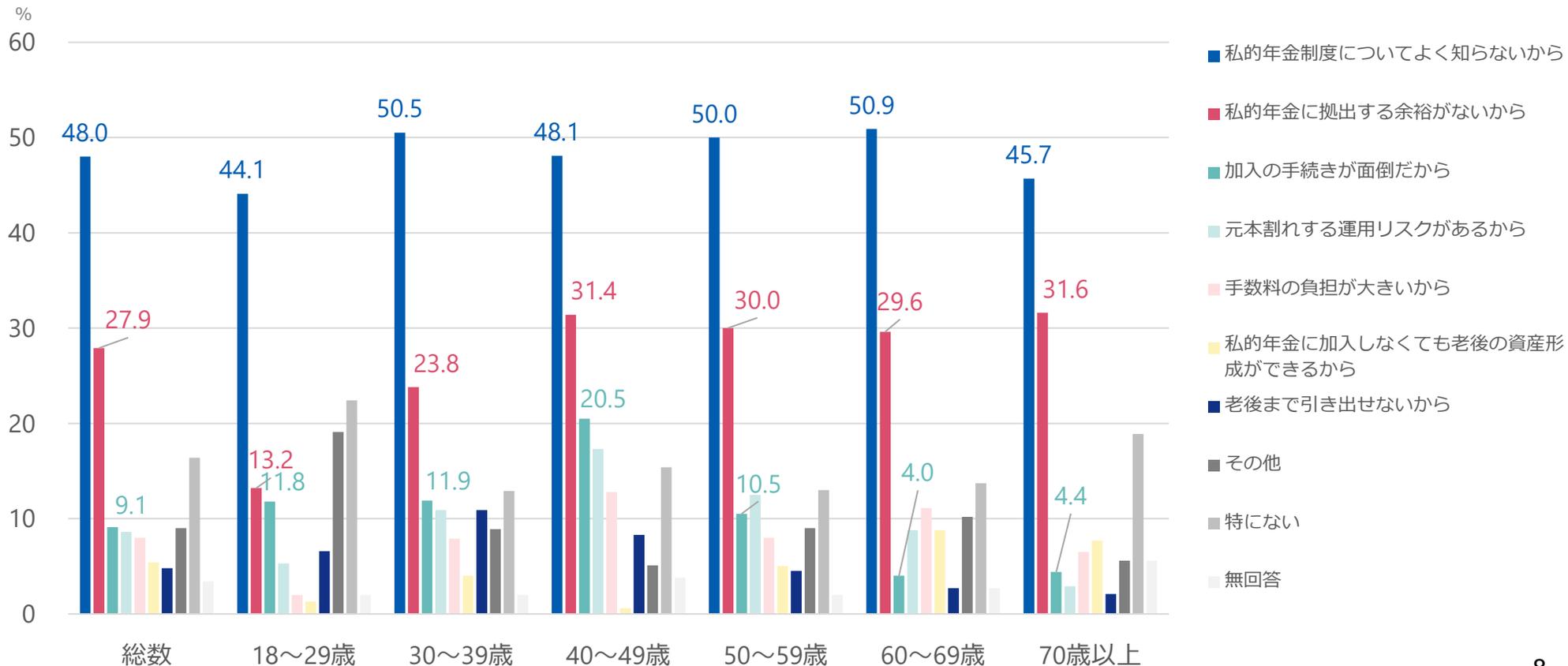


私的年金に加入していない、またはしていなかった理由について

- どの世代においても、私的年金制度についての情報の不足を理由に挙げる方が突出して多く、「私的年金に拠出する余裕がないから」についても30代以降の約3割程度が理由として挙げた。
- また、40代では「加入の手続きが面倒」を回答した方が2割程度いた。

■ 加入していない、またはしていなかった理由（問21）

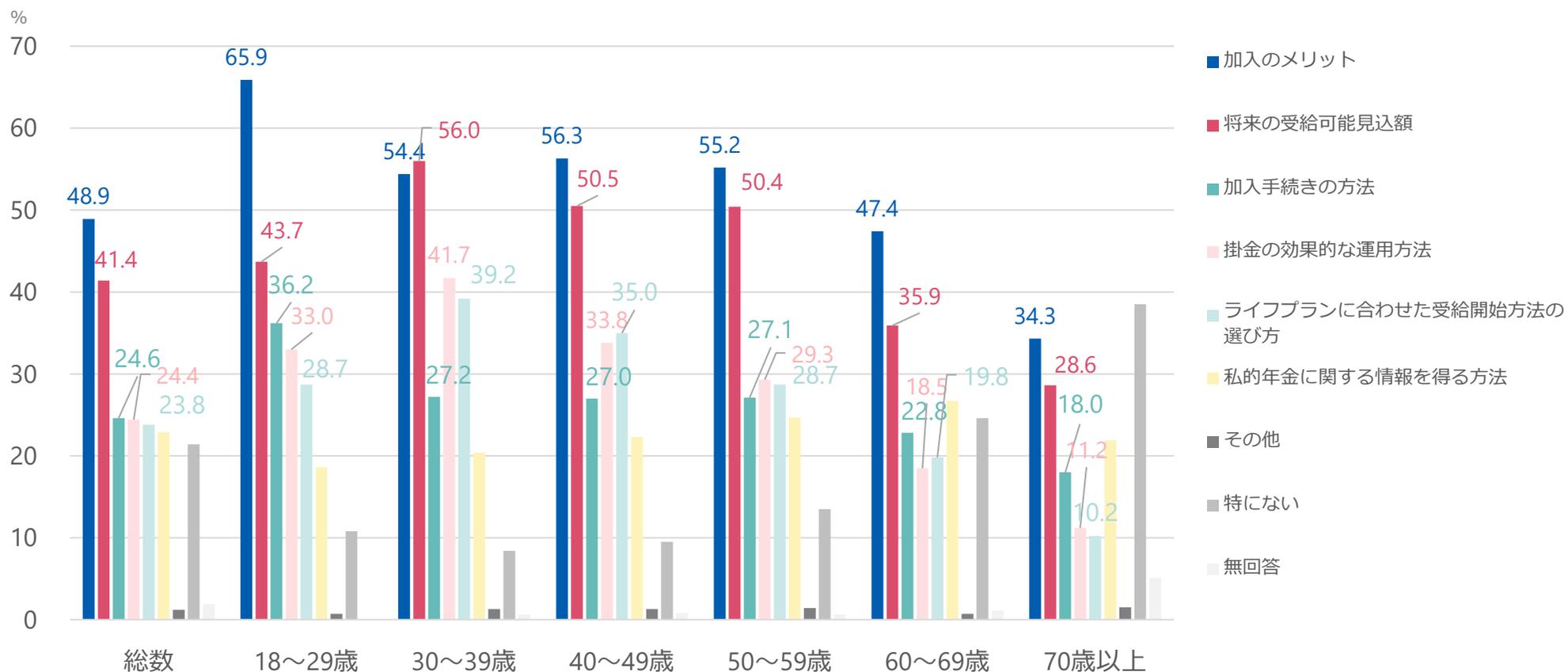
※ 私的年金制度のうちいずれかの制度にも加入していない、又はしていなかったと回答した者のみが回答、複数回答可



私的年金制度について詳しく知りたいことについて

- 全体として、「加入のメリット」を詳しく知りたい内容としてあげた方の割合が最も高く、20代～50代では5割を超えた。
- 「掛金の効果的な運用方法」については、全体ではそれほど高くないが、20代～40代では3割以上が知りたい内容として挙げた。
- 「ライフプランに合わせた受給開始方法の選び方」についても、30代・40代で約4割が知りたい内容として挙げている。

■ 私的年金制度について詳しく知りたいこと（問23） ※複数回答可



私的年金制度について参考にしたい情報源について

- 全体で見ると「新聞・ニュースサイトの記事や雑誌」の割合が最も高いが、「テレビやラジオで放送されている情報」や「厚生労働省の広報やセミナー」も一定程度の回答を得ていた。
- また、全体としてそれほど割合は高くないが、年齢層が低いほど「旧Twitter (X) やYouTubeなどで個人が発信している情報」の割合が高く、20代以下では約3割が参考したい情報源として挙げた。

■ 私的年金制度について参考にしたい情報源（問24） ※複数回答可

